

第20回地域連携手帳委員会

日時 平成27年6月18日(木) 13時30～

会場 新津医療センター病院 大会議室

1. 連携手帳の現状と問題点

・各施設での利用状況

ショートステイ 病院へ受診する際に持参するよう指導している。

訪問看護 コミュニケーション欄の活用により主治医との情報交換が出来ている。

歯科 自ら手帳を持参する患者は少ないのが現状である。

2. 連携手帳の発展的利用

・栄養欄(様式7)の利用について

病院 退院時に手帳を提出する流れは出来ているが、栄養欄の記入は徹底されていない。

栄養欄に記入をするより栄養サマリーを手帳に綴る場合が多い。

退院後、ショートステイ等介護施設を利用する流れは多く、栄養欄に記載される情報は大いに活用できるものであるため、退院時の手帳の流れについて検討する必要がある。

3. 「むすび愛手帳」への対応について

・利用状況

病院 まだ利用されている数は少ない

医院 江南区の患者では利用が多くみられているもよう。内容は地域連携手帳と大体同じである。

訪問看護 サービス担当者会議にて手帳を活用するため、各担当に声を掛けている。

・地域連携手帳との関係について

・ふれあい手帳の土台が当地区の連携手帳であることから、どちらの手帳でも違和感なく使用出来るようだ。

・今後、新たな作成費用などを考えると、いずれはむすび愛手帳に統一するべきということで意思統一された。

・新潟市でも今後、地域連携手帳会議等が行われる予定である。その席で当地区の意見を述べる必要がある。

- ・地域連携手帳を運用していくには、これまでのように委員の顔が見える場は重要であり、当地区での手帳委員会は今後も継続すべきである。

次回、手帳の切り換え時期・方法について検討する。

5. その他

新潟市医師会 IT 連携事業

「地域連携手帳」の供与依頼について

次回 手帳委員会：平成27年8月20日（木）午後1時30分～新津医療センター病院
大会議室